

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第3回フォーラム研究会
逐語録

※まず会場のレイアウト確認を行った。

(木村) それでは、第3回のフォーラム研究会を始めていきたいと思います。今日はNHKの取材が同時に行われますが、普段通り会議を進めたいと思います。

まず、資料を確認します。最初に議事次第があると思います。F3-0をお願いします。次が前回の議事録案です(F3-1)。次に、第1回フォーラム開催のお知らせと、第1回フォーラムのプログラムがありますが、2つ合わせてF3-2です。次に、フォーラム直前のアンケート調査のご回答のお願いがF3-3です。フォーラムへのご協力のお願いがF3-4です。第1回フォーラムのスケジュール表がF3-5です。フォーラムの目的と書いてあるパワーポイント資料がF3-6です。ブレインストーミングの進め方がF3-7、グループワークの進め方がF3-8です。第1回フォーラムに関するアンケートがF3-9です。最後に、フォーラムが目指すものと書いてあるパワーポイント資料がF3-10になります。以上の10種類の資料ですけども、大丈夫でしょうか。

今日は、フォーラム資料の確認をして、その後、模擬フォーラムをしたいと思います。

0. 前回議事録確認

(木村) まずは議事録確認です。F3-1をご覧ください。こちらはまだ皆さんにお送りしていないと思いますが、前回の話し合いの結果が書いてあります。これを反映して、それぞれの資料を作ってきています。

後ほど第2回フォーラム研究会の議事録等はメールでお送りしたいと思います。よろしくをお願いします。

1. フォーラム資料の確認等

(木村) 次に、フォーラムの資料を確認します。

まずはF3-2をご覧ください。こちらは、今週中に参加者に郵送する資料になります。第1回フォーラム開催のお知らせと、裏面に第1回フォーラムのプログラムがついています。スケジュールについては、この後、スケジュール表のほうで確認をしたいと思います。

また、地図もつけましたが、どうでしょうか？ 大丈夫そうですか。

F3-2 について、何かお気づきの点があれば、よろしいでしょうか。また何かあったらご連絡いただければと思います。

次に、F3-3 です。アンケートを皆さんにお配りして、当日に持ってきてもらうので、そのお願いということで作ってあります。ポイントは、調査実施責任者は土田先生で、土田先生以外は誰がどういう回答をしたかは分からないということ。個人情報全部をそこで管理する形で調査を実施することになっています。それを示しています。よろしいでしょうか。

では、次に、F3-4 です。10名ずつのつもりが、3グループのグループワークが中心になるということで、3の倍数の9名ずつにしたということ。あとは、会場の情報を載せたりしています。これも事前にお送りします。

ここまでは、前回の議論を受け、微修正したものです。次に、いよいよ本編になります。これは参加者の皆さんにはお配りしないですが、第1回フォーラムのスケジュール表を見ていきます。

運営側は11時に集合で、最初に30分ほど最終打ち合わせをやります。

11時30分から12時30分で会場準備等を行います。今日は会場をこういうふうに配置しました。第1期のときは、スクール形式とグループワーク形式の両方を用意しましたが、今回は最初からグループワーク形式でイントロダクションをやって、すぐにグループワークに入るという形式でやろうと思っています。

運営側には机がなく、昨年度と同じく、椅子を周りに配置するので、自由にいてもらうという形かと思います。このタイミングでビデオやカメラの準備をお願いします。あと、お茶の準備ですね。今日はスペースを設けていませんけれども、そちら側とあちら側に1台ずつ机を置いてもらって、そこがお茶スペースということで、自由に使ってもらえるようにしたいと考えています。

—— 当日先生が説明するのは、あちら側のほうがよくないですか？

(木村) あちらのほうがバランスはいいですね。総合ファシリテーターはこちらか、あちらか。総合ファシリテーターと私で分かれて座るのか、それともテーブル1つで2人座るのか、どちらがいいですか？

(総合F) 私は研究代表者と参加者の真ん中くらいの位置取りのほうがいいような気がするのですが、皆の前にはないほうがいいと思っています。2人で並んでしまうよりは、少し離して、自由にいたほうがいいかなと。

(木村) そうでしょうか。では、やはり私が向こう側に、うーん、向こう側のほうが

中心だから、総合ファシリテーターに真ん中にいてもらって、私はこちら側で話すようにしまししょうか？ 机を1つずつ用意して、今は適当に置いていますけれども、実際には少し斜めに配置したりすればいいかなと思っています。

—— 木村先生が真ん中のほうがいいと思うのですけれども。

(木村) 私が向こうのほうがいいですか？

あと、当日は神崎さんにもこちら側にいてもらいます。契約の話がありますから。

(総合 F) 全体の中心はずっと木村先生で、私は先生と参加者をつなぐ人だから、皆から真正面にいるよりは、さりげなく、半身ずれているというか。

(木村) なるほど。そうしたら、こちらが総合ファシリテーター、私があちら側のほうがいいですね。

(会場レイアウト微修正)

(木村) では、初回はこんな感じにしまししょうか。全体の写真を撮っておいてください。お願いします。

そうしたら、こういう感じで会場準備をして、12時半から受け付け開始になります。案内にも12時半から受け付け開始と書いてありますので、よろしくお願いします。受付では、名札を渡して、くじ引きをしてもらって、何番なのかということ記録して、あとは初回なので、アンケートを持参してくれるはずですので、アンケートを回収すると。アンケートを忘れていた場合は、すでに記入済みであれば、封を開けないで次回持ってきてください、と言ってください。それから、事前に配布した資料は全部持ってきてくださいと言っていますが、忘れる方がいらっしゃるかもしれませんので、何部か予備を用意しておいてください。あと、もしあれば名刺をもらっておくと。謝金の準備等は、神崎さん、よろしくお願いします。初回は終了後に懇親会をやりたいと思います。17時から少し準備をして、1時間半程度、19時終了の予定です。参加される方はその場で2千円をいただいて、領収書も発行をしてください。お金の管理は空白になっていますけれども、神崎さん、誰かを決めて、お願いします。

13時からフォーラムを開始します。

第1期もそうでしたが、始める前に、録音とカメラを回すことについて簡単な承認を得て、それから録音を始めるということで進めたいと思いますので、それを始まる前にお願ひできればと思います。

最初に、イントロダクションということで、あいさつとフォーラムの趣旨説明、主催団体の紹介を行います。これに関して、今日はたたき台（F3-10）を作ってきましたので、後ほど、私が話す練習も兼ねてやってみたいと思います。

F3-10の6ページに、運営者のことが書いてあります。ここで、NPO法人パブリック・アウトリーチがどういうものかということをお神崎さんから紹介をしてもらうこととなります。次に、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットさんにも紹介してもらいたいと思います。役割は、アウトリーチは研究立案、実施、フォーラムの運営責任者、元気ネットさんはフォーラムの進行・対話支援ということで、ここに明記をさせていただくということ。さらに、フォーラムの場にはいないけれども、調査分析者ということで、関西大学の土田先生をはじめとして、こういう先生方にアンケートの分析をお願いしていますということをお話したいと思います。

元気ネットさんは、パワーポイントを使いますか？ それとも、配布資料を使ってお話をしますか？

—— それは全体の中で、どちらにしたほうがいいのかで決めたほうが良いと思います。

（木村） 今までこういうことに関わって、こういう理念で活動をしています、という資料を作って、印刷しておいて、この資料を用いて簡単に我々の紹介をします、という形にしましょうか。

主催団体の紹介には時間を割きたいと思っています。アウトリーチは2～3分で終わると思いますが、元気ネットさんはかなり業績もありますので、5分くらい使っていただいて、しっかりと紹介していただければと思います。まあ、今日私がF3-10を話してみて、どのくらい時間に余裕があるかにもよると思いますけれども。

そして最後に、説明が全部終わった後に、神崎さんから、F3-4の最後のページの諸条件を読み上げ確認して、その場で承認を取っていただきたいと思っていますので、よろしく願いします。

ここまでがイントロダクションということで、40分取っています。その後は参加者の自己紹介があります。資料には運営側は1人30秒と書いてありますが、運営側は主催団体の紹介のときに、それではパブリック・アウトリーチの担当の方は立ちあがってくださいという形で、名前の紹介をしてもらおうと思っていますので、運営側1人30秒は消してください。

自己紹介は20分です。1人1分で話してもらおうと思っています。第1期は、どういう形式にしてみましたっけ？

—— 会場に来てから話すことを考えてもらっていました。紙を折って三角形にして、くるくる回しながら話すと。

(木村) そうでした。A4の紙を4つに折って、名前と所属と期待を一言ずつ。今年もそれでいいと思うのですが、よろしいでしょうか。そういう形で、1分間で話していただこうと思います。

—— 書く時間を1分くらい取りますか？

(木村) そのほうがいいですね。

—— 去年は、席についたときに書いてもらいましたよね。

(木村) はい。ただ、会場に来るのがぎりぎりの方もいらっしゃるので、一旦確認する時間を取りますと言って、2分程度取ると、18人なのでちょうど20分。遊びがゼロですが。

—— ということは、会場に来た段階で、書いてくださいと一応言うということですか？

(木村) はい。書いてくださいと言って、A4の紙も渡すと。

—— 受付で渡すのですか？

(木村) 受付ですね。で、書き方の見本をホワイトボードに貼っておく。去年もそうしていましたが、今年もそれをやりましょう。

自己紹介については、タイムキーパーをお願いしたいと思います。「30秒」「終了」の紙を掲げるスタイルをお願いします。紙に書いてもらって、その内容を話してもらうので、1分を超えることはあまりないのではないかと期待しているのですが、去年の経験上、そうとも言い切れないので。

次に、「グループワークの進め方」を説明します。F3-6を使ったらどうだろうかと思っています。

F3-6は、まず、前段に話したフォーラムの目的が書いてあります。これを達成するために、「コミュニケーション」というものを大切に考えていきたいということで、「コミュニケーションのステップ」を整理したということを示してあります。前回は番号が付いていましたが、箇条書きに直しました。あとは「文脈」という言葉が分からないという話だったので、直してみました。

これを説明した上で、話し合いのときにお互いを尊重し、さらには「コミュニケーション」というステップまでいくために、いくつかのルールを決めて、そういうものを守りながら話し合いをしてもらいたいと思っていますと。「1人の参加者として」ということで、

話し合いのルールが 5 点書かれています。

- ・ 「私は」という一人称で話す。
- ・ 誰かが話しているときには、その人が話していることをしっかり聞く。
- ・ 否定の言葉から話し始めないように気をつける。
- ・ 1 人が 1 回に話すのは 1 分以内が目安。
- ・ グループみんなで、ファシリテーターを助ける気持ちを持つ。

さらに、「ファシリテーターになったら」ということで、以下のことを守ってくださいと。

- ・ グループの話し合いをまわすことに専念する。
- ・ 誰かが話しているときは、その人が話していることをしっかり聞く。
- ・ なるべく全員に話題を振って、みんなに話してもらう。
- ・ どんなに簡単な状況でも、相手の名前を呼ぶ。

さらに、ファシリテーターが初めてという方がかなり多いと思いますので、それを支援する役として、サブファシリテーターを準備していますということで、サブファシリテーターの話もここに載せています。

次に、今日はグループワークで話し合いを進めます、そのひとつの手法であるブレインストーミングというものを行ってもらいます、ということで、ブレインストーミングの説明が書いてあります。実際には、参加者の手元には「ブレインストーミングの進め方」という資料 (F3-7) があります。その裏面には話し合いのルールを整理してあります。このブレインストーミングの進め方と話し合いのルールは、毎回毎回参加者にお配りをしていこうと思います。F3-6 には、F3-7 とほぼ同じことが書いてあるのですが、基本的な進め方、ファシリテーションに困ったときの基本的な問いかけリスト、よく起こる困ったことについて、解説したいと思います。

次に、今度はグループワーク 1 の進め方ということで、F3-8 を説明することになります。今日の模擬グループワークもこういう進め方でやろうと思っていますので、読み上げたいと思います。

グループワーク 1・・・「原子カムラ」とは何だろうか？

目的。このフォーラムは、「原子カムラ」の境界を越える、という目的のために開催されている。第 1 回では、そもそも「原子カムラ」とは何かについて、それぞれの思うところを自由に話し合う。

0. みんなでこの用紙を確認しましょう。

1. まず、テーマの質問に対して、意見を書き出します。3 分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見をポストイットに書き、手元にストックしておいてください。1 枚につき、1 つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさん意見を書くように心がけます。

2. 1 人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見に対する意味の確認

をしてください。意見に対する意見は、みんなが貼り終わったあとです。

ここまでで10分を取っています。最初なので、10分くらいはかかるかなと思います。

3. 貼られた意見に対して、意見を自由に言っていきます。また、意見と意見のつながりについても、意見を言いましょう。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードをポストイットに書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてください。

今回はこの段階からサブファシリテーターが記録をすることになります。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてもらいながら、ああ、こういうふうに記録をしてどんどん貼っていくのか、という雰囲気が分かるような進め方をお願いします。この時間はたっぷり15分取っています。

4. 出てきた意見をグルーピングします。グループを作ったら、それぞれに一言でタイトルをつけましょう。

基本的には、ここまでやっていただければと思っています。

5. 余裕があれば、それぞれの意見やまとまりについて、「見える化」しましょう。

模造紙にまとまったら、ホワイトボードに貼ります。ということで、グループワーク1を終わりにします。

—— すみません、質問です。4、5は、サブファシリテーターはどの程度関わるのですか？

(木村) 基本的には関わらないのですが、やり方が分からない場合には助言をしてあげてください。

—— タイトルを言うてはいけないですよね？

(木村) それは駄目です。タイトルがなかったら、「タイトルをつけてください」までお願いします。

よろしいでしょうか。

注意点です。ファシリテーターは、くじ引きによって指名された方です。一応書くことにしましたので、ああ、そうなのかとここで認識してもらえばいいかなと思います。

時間は30分です。時間の目安を参考にして、時間管理を適切に進めてください。

グループワーク終了の15分前と5分前に、総合ファシリテーターからアナウンスされます。これは15分、5分でよろしいですか？

—— 全体が長ければこのくらいでいいのですが…。

(木村) 1、2番が15分かかって終わらないグループがあったら怖いなと思ったのです

ね。なので、15分前にアナウンスしていただくときには、「遅くとも3番に入ってください」と言っていたといいのかなと。5分前には、「4番に入る目安です」と言ってもらえると、ファシリテーターもやりやすいと思います。そんな意図があって、15分、5分にしていきます。よろしいでしょうか。

次がなかなか難しいところですが、グループワーク1の後、グループを交換しますが、市民1名、専門家1名は「宿主」として残ります。（「宿主」もくじ引きによって指名されています。）「宿主」は、グループワーク2の最初で、新しくグループになった人たちに、グループワーク1の結果を紹介します。また、グループワーク2の後に、全体での意見共有で、グループワーク1の結果を全体の前で話します。と書いています。宿主の人もくじ引きで指名されているはずですので、それを確認して、その人がどういう役割を持つかをここで示しておきたいと思っています。

模造紙の下1/4程度は、線で区切って空けておいてください。グループワーク2で使います。ここに関しても、実際に模擬をしながら話し合っただけであればと思います。

—— グループワーク2の結果も、全体の前で発表しますよね。それを発表する方は、ファシリテーターでもなく、宿主でもない方2名というお話があったかと思うのですが、その説明はないのですか？

（木村） それはグループワーク2の注意点に書いています。

—— 「線で区切って空けておいてください」というのは、こちらで先に線を引いておいてはまずいのですか？

（木村） こちらで区切って置いておいてもいいのですが、その下はまだ使わないでくださいと言ったらどうかということです。

まずはそういう形で、グループワーク1に関してですが、いかがでしょうか。スケジュール表に戻っていただくと、14時45分までの30分間でグループワーク1をやります。この後、少し延長しても大丈夫なように、5分間の休憩を取っています。

あと、明文化していないのですが、グループワーク中でも各グループでお茶やトイレ休憩は適宜取ってもらっても構いませんので、それはサブファシリテーターの方がファシリテーター、もしくは皆さんに呼び掛けるような形で言ってください。

次に、14時50分からグループワーク2に進みます。グループワーク2に入る前に、14時50分から5分間、グループワーク2の進め方を私が読み上げます。これを読み上げているときに、サブファシリテーターは、出てきた意見の付箋に番号を振ってください。グループピングされていたら、1-1、1-2…、次のグループは2-1、2-2…という形で振るようにし

てください。

では、「グループワーク 2 の進め方」を読み上げます。F3-8 です。

グループワーク 2・・・出された意見をどう思うか？

目的。グループワーク 1 で出された意見について考え、お互いの意見を交換する。

0. みんなでこの用紙を確認しましょう。
1. 「宿主」がグループワーク 1 でまとめた結果について、紹介します。
2. 「宿主」による全体の紹介が終わったら、紹介された意見について、意味の確認の質問をしてください。意見に対する意見を言うのは後ほどです。

ここまでが目安 10 分です。

3. ファシリテーターも含めて各自が、「自分が同意できる意見」3つを選び、市民なら赤いシール、専門家なら青いシールを、その意見の書かれている付箋に貼ります。

ここはわかりますか？ 「市民は赤いシールを、専門家は青いシールを」という意味なのですけれども、誤解なく通じていますか？ 専門家の意見には青いシールを、ではなくて。まあ、最初からシールを配布しておきますので、それを見て、え？ という感じがあったら、フォローをしてもらえればと思います。

—— 自分が、ですね。

(木村) はい。自分が市民なら、です。

—— 「市民は赤いシールを、専門家は青いシールを」と書いたら分かると思います。

(木村) そのほうがいいですか。

数がいっぱいになると不公平だ、みたいな話もありましたので、シールは 3 枚ということにしました。

4. シールの貼られたグループワーク 1 の模造紙を見て、気づいたことを書き出します。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさん意見を書くように心がけます。

5. 1人ずつ意見を読み上げながら、グループワーク 1 の模造紙の下部に貼っていきます。どのような意見が出ているかをみんなで確認しましょう。なお、この意見については、特に話し合いません。

ということで、シールを貼ってもらって、シールが貼られた模造紙全体を見て、思ったことを書いてもらって、1人ずつ発表してグループの中で共有するという作業を、グループワーク 2 の前半でやろうと思っています。ここまでが 20 分です。

6. ファシリテーターも含めて各自が、グループワーク 1 で出された意見から、「なるほ

ど」と思う意見を1つ選び、「なるほど」と思った理由を書き出します。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書き、手元にストックしておいてください。理由がたくさんある場合には、何枚も付箋を使って構いません。

選ぶ意見は1つ、ということです。なので、例えば1・1と書いて、理由を書いてもらう、というような付箋ができるということになります。

7. 1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見に対する意味の確認をしてください。意見に対する意見は、みんなが貼り終わったあとです。

新しく模造紙が机の上に広げられますので、その上でやっていただくことになります。

8. 貼られた意見に対して、意見を自由に言っていきます。また、意見と意見のつながりについても、意見を言いましょう。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードをポストイットに書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてください。

これは、グルーピングというよりは、意見を出してもらうので、その意見についてさらに意見を言ってもらおうということで、自由に意見を言ってもらって、どんどん貼ってもらおうというような形式にしたいと考えています。それなので、「グルーピング」とは書いていません。

ただ、9. 余裕があれば、それぞれの意見やまとまりについて、「見える化」しましょう、ということを書いていきます。これに関しては、「ブレインストーミングの進め方」の中で、「見える化」とはこういうことだと書いてありますので、そこを見てもらうことになります。

模造紙にまとまったら、ホワイトボードに貼ります。ここまでの20分です。

注意点。ファシリテーターは、くじ引きによって指名された方です。

時間は40分です。時間の目安を参考にして、時間管理を適切に進めてください。

グループワーク終了の15分前と5分前に、総合ファシリテーターからアナウンスされます。15分前にはせめて6番に行ってくださいということを促すということ。5分前は、5分前ですというアナウンスということになります。

—— 15分前にしますか？ それとも、20分前にしますか？ 先ほどは全部で30分で、15分前、今度は全部で40分ですから、半分くらいのときに1回声をかけたほうがいいと思いますが、「ちょうど半分くらいになりました。あと20分です。6番の話にそろそろ進んでほしい時間です」と言う。

(木村) 分かりました。では、これは20分前にします。

—— 「ポストイット」と「付箋」が混ざっているのですが、同じ意味だと思うので、言葉を統一したほうがいいと思います。

(木村) はい。「附箋」で統一したいと思います。

—— 2 番の、「宿主」による全体の紹介が終わったら、紹介された意見について、意味の確認の質問をしてください、に答えるのは宿主ですよ？

(木村) 宿主です。

—— でも、明らかに間違っていると思う場合がありますよね。どうしたらいいですか？

—— 併せて、(第 1 期フォーラムでは) 十分に説明しきれない方も多々お見受けしたのですけれども。

(木村) どう思いますか？

(前参加者) 第 1 回は何が何だか分からない状態ですから、ある程度はサブファシリテーターの方に助言していただかないと。

(木村) では、「分からなくなったら、サブファシリテーターの方に手伝ってもらってください」と一言書きましょう。

—— サブファシリテーターは、全体に聞こえるように言っているのですか？ それとも、ファシリテーターだけに言えばいいのですか？

(木村) ここは宿主が答える場面ですから、宿主にこそこそと。

—— 記録の上では、できれば全体に聞こえるように言っていただけるとありがたいです。ひそひそ話を始めると、別のところでもひそひそ話が始まって、話が分断する可能性があるのです。

—— そうなのですよ。こちらで始めるとそちらで話が始まるのですよ。

—— それに、こそこそ話をするのは、(他の人から見ると) あまり気持ちがいいものではないと思うのです。

(木村) とりあえず、サブファシリテーターに手伝ってもらってくださいと書いておい

て、できるだけ抑えながらも、少し手伝ってもらおうと。

「ここはどうでしたっけ？」と宿主のほうから聞いてくれれば、話しやすいのですけれども。

(前参加者) それさえも分からない方が多いと思うのです。だから、サブファシリテーターが全体に対して言うということは、次にファシリテーターになる方にも参考になるのです。こそこそ言うよりは、ちゃんとやったほうが、次の回に活きると思います。

—— 「必要があれば」と書いたほうがいいですね。ご自分でできる人もいます。

—— いや、自分はできると思っているけれども、明らかに違っている場合どうするか、という話をしているのです。

—— でも、宿主は 2 人いるので、1 人が間違っていることを言っているときに、もう 1 人がどこかで修正してくれるかもしれないという期待はどこかで持ちながら、それでも駄目だったら修正する、くらいのタイミングで入っていただいたほうがいいと思います。

(木村) 他はいかがでしょうか？

—— 根本的な話なのですが、前半は自分が同意できる意見を 3 つ選んで、後半は「なるほど」と思う意見を 1 つだけ選ぶわけですね。同意となるほどは違いますよね。その違いが面白いと思うのですけれども、きっと、「なるほどってどういうことですか？」という質問が出ると思うのです。そのときにどう答えるのかは、決めておいたほうがいいと思います。

「同意できる」には入れていなかったけれども、他の方の意見を聞いたら、「なるほど」と思うこともあるかもしれない。その変化が面白いと思うのですけれども。

それはサブファシリテーターが答えることになると思うのです。サブファシリテーターは、「なるほど」は賛同だけではなくて、いろいろな意味のなるほどがある、という自由度をちゃんと伝えてもらうことが大切かなと。

(木村) そうですね。それが大切だと思います。

私も、前で説明するときには、なるほどというのは、単に強い同意ではなくて、自分では全然気づかなくて、納得したということもなるほどですよ、みたいな感じでお話ししようと思いますけれども。いろいろな「なるほど」があると思います、ということは伝えようと思います。まあ、忘れるかもしれないので、そのときはサブファシリテーターの皆さん、よろしくお願いします。

—— 「なるほど」の対象は、それまで出てきた全部の意見ですか？ それとも、グループワーク 1 で出てきた意見だけですか？

(木村) 私が想定していたのは、グループワーク 1 で出てきた意見だけだったのですけれども。

—— 同じ模造紙にワーッとやっていくのだったら、全部を見ると思うのですけど。

—— 模造紙は変えるのでは？

(木村) グループワーク 2 の後半で変えます。でも、5 番まではホワイトボードに貼ったグループワーク 1 の模造紙の下の部分に貼っていくので。

どうしますか？

—— ご指摘の通りだと思います。

—— 私は、むしろ、グループワーク 2 の前半の意見に対して「なるほど」と思う人のほうが多いと思います。

(木村) では、ここは、「グループワーク 1 で出された意見から」ではなくて、「グループワーク 1 の模造紙全体を見て」にしましょうか。

—— 全部含めてということですね。

(木村) はい。

—— そうすると、7 番からは新しい模造紙に貼るわけですよね？ どういう意見に対して言ったか、というのはなくていいのですか？

—— いや、番号を振るのですよ。「1-1 について、こう思った」とか書くのですよね？

(木村) はい。

模造紙全体を見て、に変更しましたので、(グループワーク 2 の前半で) 新しく出てきた付箋にも番号を振ってください。アイウエオにしましょうか。グループワーク 1 の付箋には数字を振って (1-1、1-2…)、グループワーク 2 の前半の付箋にはアイウエオと振る。そ

ういう感じで番号をずらして書いてもらおうと混乱しないかなと。

—— 1-アとか？

(木村) いや、単にアイウエオカキクケコで大丈夫だと思います。5番は、グルーピングをしないで、バーッと貼って紹介するだけになるので。

—— やってみましょう。やってみないと具体的にイメージできない。

—— 確認ですけれども、模造紙の下1/4に貼られた付箋に、アイウエオみたいな形で、別の番号を振ると。

(木村) そういうイメージです。やってみましょう。一通り確認が終わった後、グループワーク1とグループワーク2を簡便にやろうと思いますので。

では、スケジュールの確認に戻ります。

グループワーク2が終わった後、全体での意見共有を30分とっています。各グループで、グループワーク1の結果を3分、グループワーク2の結果を3分で発表することになります。質疑を合わせて1グループで10分間です。特に、質問がなければ、グループワーク2で取り上げられた意見の提出者に対して、意見の意図、それについて意見が出てきていることに対して感想を話してもらおうということで、実際に意見を出した人との意見交換をファシリテートしていただきたい。ここでは総合ファシリテーターに意見回しをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

発表者はあらかじめ決められていますので、その人に発表してもらうことになります。

次に、16時5分から、次回テーマについて30分間話し合いを取ることにしました。

グループワーク3・・・次回のテーマをどうするか？

目的。フォーラムでは、次回に何を話し合うかについて、皆さんに決めてもらいます。そこで、次回のテーマについて話し合います。

0. みんなでこの用紙を確認しましょう。

1. まず、次回取り扱いたいテーマについて、意見を書き出します。2分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が次回のテーマ案をポストイットに書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つのテーマ案です。案の質にはこだわらず、たくさん案を書くように心がけます。

2. 1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見に対する意味の確認をしてください。

3. 出てきた意見をグルーピングします。

4. その中からグループとして、2つの次回のテーマ案を決めてください。グループとして、は削除してください。テーマ案は、みんなに問いかける質問の形にしてください。

決まったテーマ案をあらかじめ配布している用紙2枚に記入してください。各テーマ案を説明する人を決めてください。話し合う時間は、全体で15分です。

最初の5分で、次回のテーマをこういうふうにして決めますということを紹介して、15分で話し合っ、各グループ2個、計6個のテーマ案が出てきます。その6個のテーマ案について、1個1分程度で説明してもらいます。そのあと、皆さんの投票によって次回のテーマを決定したい。ということで、少なくとも第2回に関しては、投票で皆さんに決定してもらいたいシステムにしたいと思っています。投票は、テーマの説明があった後に、皆さんにしてもらいます。手元に用紙を配っておいて、そこに何番のテーマというのを書いてもらって、投票してもらって、こちらで開票するという形にしたいと思っています。

—— 配布する用紙ですけれども、「テーマ案」とか書いておきますか？

(木村) 今考えているのは、A3用紙を縦に2つに短冊に切って、四角い枠を作って、もうこちらで番号を振っておけばいいと思うのですね。A-1、A-2、B-1…と振っておけば、6つ出てきますので、そういう用紙を用意しようと思っています。

投票用紙も、第1期はポストイットでやりましたけれども、ちゃんとしたものを用意しようと思っています。

よろしいでしょうか。

最後は、16時35分から10分間アンケート記入の時間をとります。それが終わった後に、1人30秒を目安にして、皆さんに一言ずつ言ってもらって、最後に私から一言挨拶をして、フォーラムを終了すると。17時終了予定です。受付でアンケートを回収してください。全員から回収するようにお願いします。

そのあと、その場で懇親会になります。できれば17時15分くらいには懇親会に入りたいと思います。ここの役割分担は後ほど決定したいと思います。

19時に懇親会が終了して、その後反省会をした後に撤収作業ということで、20時に完全撤収の予定です。よろしいでしょうか。

—— 先ほどのグループワークですけれども、サブファシリテーターが番号を振りますよね。そのとき、例えば緑色はサブファシリテーターの色という感じで決めて、他の人には使わないようにしてもらったら見やすいのではないかと思いますけど。

(木村) そういうことでいいと思います。サブファシリテーターが書いた付箋がどれか分かるように、サブファシリテーターの色は統一しておいて、参加者には他の色を使って

もらうように心がけましょう。何色がいいですか？

—— 番号だけではなくて、書くときもですか？

(木村) 書くときも。サブファシリテーターの持つマーカーを一色に統一しておく。附箋の色は黄色とかに変えないで、専門家が言ったら青、市民が言ったら赤というふうにしなから、でも、参加者が直接書いたことなのか、サブファシリテーターがフォローして書いたことなのかが分かるようにしておきましょう。

—— 緑が好きだそうです。

(木村) では、緑をお願いします。

では、長くなりましたが、本題に入りたいと思います。少し休憩した後、模擬フォーラムに移ります。

2. 模擬フォーラム

(木村) それでは、後半を始めたいと思います。

まずは、フォーラムに関する説明書、F3-10 を基に、プレゼンの練習をしたいと思います。プログラムの中の、挨拶・フォーラムの趣旨説明・主催団体の紹介にあたります。

(スライド 1) パブリック・アウトリーチの木村と申します。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

今回、フォーラムを皆さんと一緒に作っていこうということで、企画をしまいましたが、このフォーラムが何を狙っているのかということ、フォーラムの中でどういことをやっていこうとするのかということを説明したいと思います。

(スライド 2) まず、なぜこのような研究を始めたのか、そのきっかけをご説明します。

大きなきっかけは、3年以上前になりますけれども、福島事故です。福島事故を受けて、原子力業界、原子力の専門家の信頼が欠如したということが、ひとつの大きなきっかけになります。

これは、我々が今年の 1 月に実施した社会調査の結果です。首都圏の方々を対象に調査を行ったのですが、暖色系の赤とオレンジが、「信頼している」「どちらかといえば信頼している」という層、寒色系の緑と青が、「信頼していない」「どちらかといえば信頼していない」という層を表しています。一般的に「科学者・研究者」と聞くと、信頼している層

は 45%程度です。これと比べて、「原子力の専門家」を信頼している層は 20%を切っています。信頼していない層も多めになっています。

こういうところで一目瞭然のように、原子力に対する信頼が著しく欠如しているということがひとつめの背景です。

(スライド3) さらに、コミュニケーション不全が起こっているのだろうという仮説を持ちました。

これはイメージ図ですけれども、テーマのひとつでもある「原子力ムラ」というものの中と外を模式的に、非常に単純化して書いたものになります。すなわち、「ムラの中」は、どちらかといえば原子力の専門家の人たち、そして「ムラの外」は、一般的な市民の方々、という図だと思ってください。

周りに吹き出しが書かれています。ここには、我々が調査してきた中で、ムラの中の人たちがこんなふうに思うときがある、ということが書かれています。何かが起こったときには、ムラの中の人には、「きちんと説明しなければ」と思っている。一方で、「こんなことまで説明したら、ますます人々から信頼を失いそうだ…」「どうせ人びとは理解できないし…」というような、市民に対しての思い込みがあるということが分かっています。

そうはいいながらも情報が提供されたときに、ムラの外の人たちは、「また、何かが起こったのかしら？」と思う。でも、「どうせ難しいことしか言わないし…」「そんなに問題が小さいわけがない。肝心なことは隠しているに違いない」、さらには、「どうせ私たちを見下しているのだろう」「本当のことを言っているかどうか、分からない。やはり信頼できない」というような思いを持つ。非常に端的ですけれども、そういうものが見えてくるということなのです。

こういうものを受けて、今度はムラの中の人々が、「やっぱり分かってもらえなかった」と思う。そうすると、「どうせ分かってもらえないのに、本当に全てを話す必要があるのだろうか…」という疑問になる。このように、お互いがお互いに対して思い込みをして、相手はこういうふうに思っているから、自分はこういう行動をとる必要がないのではないか、無駄ではないか、とお互いが思い込んでしまっている。それによってコミュニケーションの循環がうまく回らない。

この根本的な原因として、先ほどお話しした不信感というものがあるのではないかと、という仮説を立てたわけです。

(スライド4) このフォーラムは、その不信感、そしてコミュニケーションの不全の循環構造を打破するために作られた仕組みになります。

ここに書いてありますけれども、市民と専門家が、お互いを尊重し、コミュニケーションすることを可能とする仕組みを創りだす。これがフォーラムの目指すものになります。

では、このようなコミュニケーションの場は、どうしたら作れるのだろうかということ

で、いろいろなことを考えました。それが、ここに書かれている 3 つのポイントになります。

1 つ目は、市民と専門家が対等な立場での対話を通じて、知識、情報量、経験、社会的立場、価値観、人生観等までを含んだ、お互いの人柄や人となりを理解するということ。

そして、伝聞だとどうしても相手への思い込みが打破できませんので、やはり直接のコミュニケーションが必要だろうということ。したがって、皆さんにこうやって一堂に会していただいたということになります。

3 番目は、なるべく公平と思える対話の場を創り出すということです。

この 3 点に気をつけて、フォーラムを設計しています。

(スライド 5) まず、参加者をどのように設計したのかをご説明します。

今日は、市民の方の代表として、首都圏住民 9 名、そして専門家の代表として、原子力学会員 9 名にご協力いただいております。

この 9 名をどのような根拠で選んだのかということをご簡単に紹介します。市民 9 名については、原子力の利用に対する考え方が、母集団となる首都圏調査と同じような比率になるように選ばせていただきました。こちらは、今年の 1 月に実施した首都圏調査の、原子力の利用についてどう思いますか、という項目の結果です。「利用」「どちらかといえば利用」という人たちが 20%弱、「廃止」「どちらかといえば廃止」という人たちが 5 割程度、残りが「どちらともいえない」という割合になっています。参加者 9 名の比率もこれに揃えようということで、「利用」「どちらかといえば利用」という方が 1 名、「どちらともいえない」という方が 3 名、「廃止」「どちらかといえば廃止」という方が 5 名で、計 9 名という配分になっています。カッコがついているのは、じつは 1 名だけ、今は利用だけでも、将来は廃止であるという回答をされた方がいらっしゃいましたので、カッコ書きで書いています。このように、首都圏の調査の割合と、今回お集まりいただいた市民の方の割合がだいたい合うようにして、皆さんをお選びしています。すなわち、首都圏の皆さんの分布の代表者として、皆さんに参加いただけるような設計をさせていただいています。

また、原子力学会員 9 名に関しては、研究職の方、技術職の方、事務職の方、それから専門分野も、放射線、核分裂、核燃料サイクル、核融合、保健物理といったような、様々な分野にまたがる人々に集まっております。

なお、元々は 10 名で募集をかけていましたけれども、9 名にしました。この机の配置を見ても分かるように、フォーラムはグループワークを中心にしたいと思っています。3 グループに分けてグループワークを行いますので、3 の倍数である 9 名にすることで、各グループの中でも専門家の方と市民の方が同じ人数になるように、そして対等な立場で対話していただけるように、9 名に変更しています。

(スライド 6) それでは、フォーラムの運営者を紹介したいと思います。

まずはNPO法人パブリック・アウトリーチ。立場は、研究の立案や実施、本研究の全体の取りまとめになります。したがって、フォーラムの運営責任者も私たちということになります。

また、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットさんにもご協力をいただいています。元気ネットさんには、フォーラムの進行、そして対話の支援を担当していただきます。非常に経験豊富ですので、我々がお願いをして、ご協力をいただいているということになります。

さらに、今回のフォーラムや、前段に行った社会調査の分析担当ということで、各大学の先生方をお願いをしているということになります。

それでは、パブリック・アウトリーチと元気ネットさんから、それぞれどういう団体なのかということをご紹介いただきたいと思います。と言って、ここで回します。

—— 神崎さん、簡単にやってもらえますか。

(神崎) それでは、まずパブリック・アウトリーチの説明をさせていただきます。平成21年7月にできた、科学技術を市民と社会のために分かりやすくお知らせする団体です。研究代表者は、今、木村浩が務めております。その他のメンバーを紹介させていただきます。立つだけでいいですか？

(木村) 皆に立ってもらって、名前を読み上げれば良いと思います。

(神崎) はい。

では、パブリック・アウトリーチの方はご起立いただけますか。それでは名前を紹介させていただきます。(中略)以上、〇名でございます。よろしく願いいたします。

(木村) 引き続き、元気ネットさんからご紹介いただきます。

これは鬼沢さんからがよろしいですか。

(鬼沢) 持続可能な社会をつくる元気ネットは、家庭から出るごみの問題に関心を持つ人たちでできた市民団体です。今年で18年になります。ごみ問題を中心に活動を続けてきて、その解決に向けてのリスクコミュニケーションに関心を持って、その経緯からこの研究のお手伝いをさせていただいております。元気ネットの皆さん、お立ちください。(中略) よろしく願いいたします。

(木村) ありがとうございます。このようなメンバーでフォーラムを運営したいと思っております。よろしく願いいたします。

(スライド7) 引き続き、フォーラムの設計についてお話を進めていきたいと思ひます。

すでに皆さんにお知らせしてはいますが、実施日についてです。やはりお互いに理解していくためには、同じメンバーにより繰り返して対話をするこゝが大切と考へておひます。1回きりで対話を終えてしまうのではなくて、何回か繰り返すこゝによって、お互いに理解が深まると考へてはいますので、皆さんにはご負担とは思ひますけれども、5回を1セットとして設計してはいます。具体的には、第1回から第5回まで、土曜日の隔週の5回ということになります。

(スライド8) 続いて、フォーラムの実施方法についてです。

先ほど、3グループに分かれて、という話をしましたけれども、フォーラムは、専門家と市民の対等な対話を尊重したいということもあつて、多人数対多人数というよりは、少人数のグループワークをするこゝによって、対等な対話が導けるのではないかと考へてはいます。したがつて、1グループ6人程度ずつのグループワークを行います。

どうひメンバーがグループになるかということは、くじ引きを使い、皆さんの中で偏りがないように、公平に決めていきます。ただし、各グループ市民3名、専門家3名というように、グループの中でも人数が同じになるように、こちらでくじ引きを用意します。

今、机の上には模造紙や附箋、マーカーなど、様々なものが用意されてはいますけれども、付箋に書いたり、話し合ひをしたり、最後に皆で共有したりと、こういう形でグループワークを実施してはいきます。

皆さんが引いたくじの中には、いろいろな記号が書かれてはいると思ひます。グループワークでは、ファシリテーターという役がありますけれども、ファシリテーターも参加者の皆さんに率先してやつていただくこゝ考へてはいます。ファシリテーターをするこゝによって、一歩引いて、周りの話を聞くこゝができます。それが相互理解に非常に大きな影響があるということ、積極的に皆さんに関わつていただくこゝ考へてはいます。

ただし、いきなりファシリテーターをやれと言われても、経験のない方がほとんどだと思ひますので、先ほどご紹介しました元気ネットさんがサブファシリテーターとしてファシリテーターを支援する、という形を考へておひます。

このようなことを繰り返して対話をしていくというのが、フォーラムの進め方ということになります。

(スライド9) 次に、話し合ひ内容についてです。

初回と最終回のテーマは、こちらで設定させていただきます。第1回のテーマは、『原子カムラ』とはなんだろうか?』です。こゝに、案内の中から抜粋させていただきますけれども、「例えば、原子カムラという言葉は、マスメディアやインターネットなどで、原子力に関わつてはいる人たちにレッテルを貼るために使われてはいます」。「原子カムラ」

というものが、そもそも何だろうかということをお話し合っただけなのが、初回のテーマになります。

そして、最終回では、もう一度考え直してみよう、というテーマをセットさせていただきました。

それ以外の回のテーマは、原則として参加者の皆さんに決めていただくという方式を取っています。その際には、原子力に限らず、エネルギーや環境、省エネなど、周辺の領域をテーマにすることも可能です。市民と専門家が対等に話せるようなテーマを、ぜひ皆さんの中で決めていただきたいと思います。どのようなテーマで話し合ったら、目的である、お互いを理解して、尊重して、コミュニケーションをはかれるのか。そのために、テーマを決めていただくというプロセスを準備していますので、ぜひ皆さんにご協力いただきたいと思いますと考えております。

(スライド 10) なお、フォーラムでは記録および分析を行います。

フォーラムの中の対話は、全て録音して、書き起こして、個人情報や不適切発言は削除させていただきますけれども、全てをホームページに公開するという事です。昨年度のフォーラムも同じように記録を行っていて、すでにホームページで確認することができます。今回も、皆さんに自由にお話をしていただいて、それは一切隠すことがないということをお誓約するためにも、記録をしてアップしていきたいと考えております。

また、学術的な視点から、以下のようなことを行います。

1つ目はアンケートの実施です。もうすでに皆さんにやっていたものもありますし、今日の最後、そして各回の最後、そして全てが終わった後にもう一度、というように、計7回のアンケートを実施します。こちらのアンケートの分析は、関西大学の土田先生を中心としたグループでやっていただきます。そして、個人情報の管理は、土田先生が中心となって徹底して行って、木村以外のフォーラム運営者には個人情報とその回答が一致して伝わることはない、という形で進めてまいります。

また、各自へのインタビューを実施します。これは第5回フォーラムが終わった後、8月ごろに、1人ずつ行っていきたいと思っております。よりよい取り組みの提案のために実施するインタビューということで、木村、竹中、丸山が担当します。なお、日程に関しては、フォーラム最終回の終了時に調整する予定です。

また、フォーラムの様子を録画いたします。ただし、学術的分析にのみ利用し、その他の利用は一切いたしません。外に流出することは一切ないということをお約束したいと思います。

(スライド 11) その他の項目です。

フォーラムの参加に伴う謝金は、1回につき5000円、インタビュー1回につき5000円で、計3万円になります。ただし、源泉徴収税別、交通費込みということになります。

フォーラム開催に関する費用は、平成 25・26 年度の原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ、「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行という、文科省よりパブリック・アウトリーチが受託している研究費によるものです。

また、本研究で得られた研究成果は、さまざまな学術的な場において公表いたします。ただし、そのときに個人情報が出されることは一切ありません。

このような条件でフォーラムを実施していきたいと思えます。

引き続きまして、神崎より、フォーラムにおける諸条件を読み上げて、皆様の承認をいただくプロセスに入らせていただきます。では、よろしくお願ひします。

こんな感じで進めていきたいと思えますが、どのタイミングで質問を受けましようか？

—— 今ちょうど 25 分です。

(木村) そうすると、あと 15 分ありますから、読み上げたり、質問を取ったりという時間が取れそうですね。

内容はいかがでしょう？

—— 途中で両方の団体の紹介が入るのですか？

(木村) はい。あのタイミングで入れようと思っています。

—— コンパクトに収まりますよね。

(木村) はい。目的を話しながら、そのためにこういう人たちを集めてきたということや、そういう人たちはどういうバックグラウンドなのかが分かるかなと思って、あそこで説明してもらいたいと思ったのですが、どうですか？ 大丈夫そうですね。

他はいかがでしょう？

—— 我々がフォーラムにおいて皆にどういうことを要求しているか、ということは話されていますけれども、このフォーラムは、境界を越えるためのアイデアをむしろ参加者のほうから出してほしいというか、積極的に参加してきてほしいということがあると思うのですが、その点がどこかに入っているといいなと思いました。

(木村) 9 ページの前にそういうことを 1 ページ追加しましょうか。で、ここで一旦切って質問を受け付ける。で、10 ページで、ここから少し事務的な話をします、みたいな感じのほうがいいかなと思ったのですが、どうですか？ なんか、10 ページ、11 ページはすごく事務的ですね。ただ、事務的な話をしておかないと、研究倫理上問題が生じる

ので、そういう話はするのですが。

—— 私は、研究実施者側が何をしたいかというのは伝わるけれども、せっかく自分たちがこの研究に参加して、その成果をどのように活かすのかという辺りがあまりピンと来ないので、自分たちが 5 日間も大事な時間を使って参加することにどういう意義があるのかというのがもう少し伝わったほうがいいかな、という印象を持ちました。

参加者の自己紹介は、この説明の後ですよ。ですから、この話をしている間は参加者の方は緊張しておられる。この場は一体どんな場なのだろうか。ですから、公平感がある場を作りながら、その成果をできるだけこれからの社会のコミュニケーションの活性化に活かしたい、みたいなことを淡々と話したほうがいいのかな、というような感じもしつつ。でも、とても大事な視点なので、その温度をどの辺りで強めていくかが大事なかなと思って見ていました。

(木村) はい。なので、9 ページと 10 ページの間に 1 枚追加して、その部分をしっかりまとめて、ここで一旦質問を受けて、その後事務的な話をする、みたいなスタイルがきれいかなという気がしましたけれども。まあ、記録の話は先にしたほうがいいかもしれないのですが、その先はどんどん事務的になってくるので、後かなと。記録は、公平を確保するために記録しますということで、(質問の時間の前に) 言っておいたほうがいいですよ。

—— 最初に録音しますと言うのですよね？

(木村) それは、総合ファシリテーターからさらりと言ってもらいます。

—— ホームページに公開しますということは、この段階で言うわけですね。

(木村) はい。ここで言います。

では、記録の部分は前半に言っておいて、学術的分析の視点からのアンケートやインタビューというのはその他の項目に入れて、事務的な話としてまとめましょう。

—— 先ほどご指摘があった点は、

(木村) それを、記録の話の後に、1 ページ新たに入れると。

—— それを言葉で説明するならば、もう一度 3 ページに戻ってもいいかもしれませんが。結局、不全が起こっているから、そのためにはどうしたらいいかというのを実際にやってみる、ということですよ。

(木村) はい。皆さんが参加してくださるだけのメリットがありますということのをうまくアピールしたいわけですね。

(前参加者) それがないと、何のために出席しているのか、ということになってしまいます。

(木村) そうですね。

そうか、「一緒に生み出していきましょう」みたいなことをちゃんと言うことが大切ということですね。分かりました。

—— 今、一緒になって成果を作っていこうという話がありましたけれども、例えば、8ページをもう少し丁寧にお話しする中で、関わっていただきながら、どういうふうに行っていたらいいのか、一緒に考えていきたいので、よろしくお願ひします、みたいなことを丁寧に説明したらどうかという気がしましたが。

(木村) スライドはこのままでいいけれども、説明するときにもう少し丁寧に、ということですね。

—— はい。もう少し丁寧に。皆さんに参加していただくことで、こちらが想定していること以上のご意見やお知恵がいただけるのではないかと、というような形でお話をしたらどうでしょうか。

—— それに加えて、実は私は元気ネットの皆さんと会うまで「ファシリテーター」という言葉を知らなかったもので、結構知らない市民の方がいらっしゃるのではないかと思うのです。どうなのでしょうかね？

—— コミュニケーション・マニュアルに書いてあるから。

(木村) 一応書いてあります。まあ、読んでこない人もいるでしょうが。

—— 確かに、最初の説明のときに、ファシリテーターについても丁寧に説明したほうがいいと思います。

(木村) 分かりました。8ページが初出なので、そこで少しお話をしたいと思います。

だいたいの筋道はいいのでしょうか。1ページ加えることと、8ページを詳しく話すように

少し練習しておきます。

—— パブリック・アウトリーチと元気ネットを紹介する別の用紙を用意するのだったら、それは別に配るのですか？ それとも、この資料の間に入るのですか？

(木村) どちらがいいですか？ 私は別のほうがいいと思ったのですけれども。一緒にすると、よく分からなくなってしまうから。

—— そうすると、1枚紙で、4スライドくらいですか？

(木村) 冊子でもいいですけれども。

—— 去年のシンポジウムのときの資料があるじゃないですか。

—— あれはかなり分量があるから、

(木村) 別にスライドを映すわけではないので、この資料を手元で見てくださいという形で構わないと思います。たくさんあったほうが、何をやっているかが分かるので。

—— そうしたら、シンポジウムの資料はフォーラムのことを後半に入れているから、そこを除いて作ります。

(木村) はい。厚くてしっかりした情報を提供しておいたほうが、逆に不信感がないと思います。

—— 話すのは5分だけど、資料はたくさん用意しておいて、あとで見てくださいという形ですね。

(木村) はい。そのほうがいいと思うのですけれども。

—— そうですね。

—— あと、C班の席は結構遠くて、スクリーンが見づらいのですが。

(木村) A班の席はどうですか？

—— ここは木村先生の体と重なってしまいます。

(総合 F) 実際にやったときに見にくそうにされていたら、真ん中に椅子を持ってきてください、と言います。

(木村) では、次に、実際にグループワークをしてみましょう。

(準備)

—— ホワイトボードはどこに置いて、サブファシリテーターはどちら側に座るかを定める必要があると思います。

(木村) ファシリテーターはホワイトボードが背中に来る位置に座ってもらいます。時間がないので、15分くらいにしましょうか。

(総合 F) 皆さん、グループワーク 1 は 30 分なのですが、今日は 15 分くらいでやってしまおうということで、目安の時間も半分で進めてください。

—— テーマは何ですか？

(木村) テーマは、「日本の将来のエネルギーについて」にします。

※以下、ロールプレイをしている際はゴシック体、グループワークの方法について議論している際は明朝体で示す。

●グループワーク 1

テーマ「日本の将来のエネルギーについて」

(a: ファシリテーター※以下下線で示す) まず、テーマの質問に対して意見を書き出します。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見をポストイットに書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさん意見を書くように心がけます。

2番、1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見に対する意味の確認をしてください。意見に対する意見は、みんなが貼り終わった後です。

では、「日本の将来のエネルギーについて」、意見を、1分半でお願いします。

(B) なんか、漠然としていませんか。

—— 毎回参加者はそういう漠然としたことを投げかけられているということです。

(b) なんでもいいのですか？

(a) なんでもいいのではないのでしょうか。

ファシリテーターも書いていいのでしょうか？

(サブF) 構いません。

(記入中)

(a) では、1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見に対する意味の確認をしてください、ということで、私からやってしまいます。

〔自然エネルギーが増えてほしい〕と思っています。

あと、〔温暖化が心配〕です。

あと、エネルギーのことについて、原発のこととか、温暖化のこととか、もろもろ含めて、〔漠然と不安〕を持っています。以上です。

では、左からいきましょうか。

(B) 今日も新聞に出ていたのですが、〔自国での賄いを増やすべき〕ではないかと思えます。

それに対して、〔エネルギー政策の周知が必要〕です。これは国民に対してですね。

そして、〔お先真っ暗と言われない政策〕がほしいです。

(b) 〔バイオマスエネルギーの活用〕がもっと必要だと思います。

それから、1人1人がエネルギーのことをもっと〔身近に捉えられることが大事〕なのではないかと思えます。

それから、バイオマスと同時に、日本は水が豊富だから、〔水力の有効活用〕がもっとあってもいいと思えます。

それから、〔エネルギー教育が大事〕ではないかと思えます。

(a) では、Aさんお願いします。

(A) まず、[環境にやさしい]。温暖化の辺りに近いでしょうか。
それと、[将来的に安定に確保できる]。これはどこにもないかな。

(a) グルーピングは後でしますので。

(A) では、近いところに貼っておきます。
[安いコスト]ということ。経済性があるということかな。とりあえず貼りますね。
もうひとつは、最近中国でPM2.5などの問題があるので、[空気汚染がない]ということも大事ではないかと。環境よりも特別扱いしました。

(a) では、cさんお願いします。

(c) たくさんと言われたので、質より量とやってみました。ここから貼ってしまってよろしいですか？

(a) どうぞ。貼りやすいところに貼ってください。

(c) 意見が重なるのですが、最初に、[心配]だなと思いました。
何が心配なのかを考えてみたら、いろいろと[予測できない]ことが多いのではないかな。
そして、今は原発の問題とかいろいろありますけれども、[何がメインになって]発電、エネルギーを供給するのだろうか。
そして、本当に[足りなくなるのか不明]であるということ。
自然エネルギーが増えると言っているけれども、本当に実現するのかな、ということを考えてみました。

(a) では、Cさんお願いします。

(C) まず、今後、[火力発電は厳しい]のではないかな。特に、石油などの値段が非常に高くなるのではないかな。
原子力の専門家としては、[原子力発電はやはり必要である]と思います。
そういった中で、今までも出てきましたけれども、[国としてのビジョンをしっかりと出してほしい]と思います。

(a) では、貼られた意見に対して意見を自由に言っていきます。

(サブF) 質問は大丈夫ですか？

(a) ああ、そうか。意味が分からないものはないでしょうか？

(b) 「空気汚染がない」というのは、環境全体の話とは違うのですか？

(A) まず、ものを作るときにいろいろなものを燃やしますよね。PM2.5とか、炭酸ガスの問題だけではなくて、粒子が小さいものが肺に入ってくる。そういうことも考えないといけないのではないかと。

あと、車社会になって、車からもいろいろなガスが出ますよね。そういうことも十分に考えないといけないのではないかと。今後、車は、日本だけでなく、アジアでもすごく広がっていきますから、日本だけでなく、海外も関係があるのではないかなと。幅広く考えたらどうかと思いました。

—— 一旦止めて、問題点を挙げてもいいですか？ 今のように、質問が出たときに、延々と話している場合はどうするのですか？ そのルールを決めておかないと。おそらく、専門家に振ると、1人が長く話しますよね。

質問に答えてもらうことになっていましたっけ？

—— 意見に対する意味の確認です。

—— 意味の確認であって、丁寧に答えてもらう必要はないのですよ。

—— 私が「意味が分からないものはありますか？」という聞き方をしたのは、質問という聞き方をしてしまうと話が長くなってしまうので、そういう聞き方をしたのですけれども。

—— ここは時間がかかるような気がします。

(木村) 2番は、「1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます」だけにしないで、「意見に対する意味の確認をしてください」はやめましょうか。

—— 意見に対する確認をすると、特に専門家は、丁寧に答えると思います。

—— では、やめましょう。

—— では、次に進んでみましょう。

(a) 貼られた意見に対して、意見を自由に言っていきます。また、意見と意見のつながりについても、意見を言いましょう。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードをポストイットに書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてください。では、意見を自由に言っていただいて、それを書いてもらいます。

(b) 質問ですけど、意見を自由に言うというのは、自分以外の人意見に対して、どう思うかという意見を言うのですか？

(a) ここに出た意見についてなら、なんでもいいのですよね？

(サブF) そう書いてあります。貼られた意見に対して意見を自由に言っていきます。意見と意見のつながりについても意見を言いましょう、ということだから、自由に意見を言ってください。

(木村) サブファシリテーターは、赤色と青色の付箋を持つのでしたっけ？

—— 黄色の付箋です。

—— いや、違いますよ。付箋は赤と青で、市民が言ったら赤、専門家が言ったら青に書くのです。

—— そうでした。それを緑色のペンで書くと。

—— 模造紙は、この向きでいいんですしたっけ？

(木村) ファシリテーターの向きでいいのではないのでしょうか。

—— こちらからだとは少し見にくいですね。

—— 第1期は、逆だったような気がします。

—— そうですね。サブファシリテーターがよく見える方向より、参加者の皆さんによく見える方向のほうがいいですね。

(模造紙の向きを逆にする)

—— 自由に意見を言う前にグルーピングしたほうが、話がしやすくないですか？

—— 貼る時点で、グループが分かるものは、大雑把でいいからグルーピングしておいたほうがいいのではないのでしょうか。

—— でも、グルーピングは全員でやらないといけないでしょう。

—— 最初の意見の書き出しのときにグルーピングも一緒にやろうとすると、それだけで時間がオーバーしてしまう気がするので、バーッと貼ってから、じゃあ皆でグルーピングしましょう、のほうがいいと思います。

(木村) この段階でグルーピングしたほうがいいですか？

—— そのほうが3番の話が進めやすい気がします。

—— ダーッと出してもらって、次にざっとグルーピングして、「じゃあこのグループについてどうですか」というほうがやりやすいと思います。

(a) では、意見が近いと思うものをグループ分けしていきましょう。

(A) 付箋の色は関係なく？

(a) 色は関係ありません。

(C) [環境にやさしい]とか、[温暖化が心配]とか、環境系の意見がありますね。
あとは、不安系を置く場所をどこかに作る。

(a) あとはコスト系。

(b) 政策に関わるものはこの辺かな。

(a) [エネルギー政策の周知]、[身近に捉えられることが大事]は？

(b) 政策ですね。

(サブ F) 「将来的に安定に確保できる」はこの辺りでしょうか？

(A) それは政策に近いかもしれない。

(a) ここは不安のグループですか？

(サブ F) ここは不安、心配のコーナーです。

(B) 「安いコスト」というのは、原子力だから、ということですよ。

(C) これらの不安は全部ひとつに合わせてしまってもいいのですか？ 環境系の不安と、それ以外の不安が混ざっているのですけれども。

(c) これは環境の不安ですか？

(サブ F) これは量的なものでしょう。

(C) じゃあ、少しだけ距離を空けておきますか。

(サブ F) すみません、この下には今は貼らないようにしておきましょうね。

(A) これに近いですね。

(サブ F) ここは一緒にいいんじゃないですか。

(B) 「心配」や「漠然と不安」というのは、環境に対して心配だということですか？

(A) 2種類ありますね。

(サブ F) 2種類ありますね。

(b) 書いた人に聞けばいいのでは？

(c) 「心配」は、漠然とした不安なのです。

(サブF) では、ここでいいですね。

(B) その不安というのは、はっきり言えない不安？

(c) はい。いろいろなことを総合して。

(サブF) では、次にいきましょうか。

(a) では、グループ分けしましたけれども、この中で意見とか疑問とか、

—— 止めていいですか。ここでタイトルをつけないのですか？

(木村) 進め方を少し書き直します。

3番の前に、グルーピングをすることを追加します。3番で、自由に意見を言う。4番で、グループを見直して、それぞれに一言でタイトルをつける。

—— なので、3番の前のグルーピングは、あまり細かくやらなくても大丈夫です。

—— では、まだタイトルはつけなくていいのですね。

(a) では、自由に意見を言ってください。疑問なり、意見なり。

(サブF) 時間的制限もあるので、例えば、まずこれについて言いましょうとか、そういう感じで進めていただいてもいいですか。

(a) 分かりました。では、まずは環境に対する意見がここにまとめられていますが、何か思ったことがあれば言ってください。

(C) 他のグループとの関係になるのですけれども、おそらく、環境系の話と、コストなどの話は、相反するというか、両立は難しいのかなと思いました。

(B) 「水力の有効活用」と書いてあるけれども、揚水発電も入るのですか？

(A) あれも入りますよね。

(B) あれは原子力があるからできることですよ。

(A) 書いた人に質問したいのですが、〔水力の有用活用〕というのは、具体的には、ダムから水を落とすことを言っているのですか？

(b) もっといろいろな使い方があるのではないかと、ということです。水が非常に豊かだから、いろいろな利用があるのではないかと。大規模でなくても、何かあるのではないかとということです。

(a) これは、環境と経済は両立が難しいのではないかと意見ですが、

(b) いや、難しいかな。私はむしろ、この2つが相反するとは思えないのですけれども。相反すると言っているから、いつまで経ってもぶつかり合いの意見しかないのであって、相反さなくてもいいのではないかと思うのです。

(a) 相反するという考えを持っている傾向があるけれども、それが両立するようなところを考えていけないといけないということですね。

(B) そうすると、こっちのほうで、

(C) 〔安いコスト〕などの意見と、環境系の意見の間の意見として、いくつか（相反する、相反さないという意見）出てきたと。

bさんが今言った両立できるかもしれないエネルギーというのは、ここに出ているようなエネルギーをイメージされているのですか？

(b) いや、そればかりではなくて。常に自然エネルギーと原子力が相反しているというふうにおっしゃったから、そうではない考え方もあるのではないかとということです。

(サブF) bさん、これでいいですか？（付箋の確認）

(b) コストが相反する、ではなくて、全てに関して、相反するとは限らないのではないかと思うのですけれども。コストだけではなくて。

(a) 環境と経済は両立できるはず、ということですよ？

(サブF) 経済は違いますよね。コスト？

(b) いや、だから、コストだけではないわけですよ、別に。

(c) 実現性ということですか？

(b) 理解の部分でも、社会的認知の部分でも、自然エネルギーと原子力がいつも相反する、とどうして考えているのかなって思うのです。

(A) 最初からそういう前提で考えているからおかしいのではないかと。

(b) そういうことです。

(a) あれ？ そうすると、ここのグループは何のまとまりになるのか分からなくなってしまったのですが。

(B) 原子力発電がこれから必要になってくるのではないか。そのためには安いコストもある。その関連で、水力もこれからいろいろな形で利用できるのではないかということで、対立ではなくて、協調できるのではないかということです。

(A) というのが、bさんの意見ですよ。

(a) ここは原子力のグループ？

(B) ええ。原子力だと思います。〔安いコスト〕というのは、原子力のことですよ？

(A) 私が書いたのですけれども、そうです。一番安いと思います。

(a) そして、環境と原子力は両立できるはず、という意見があるわけですね。

(B) そうですね。

〔漠然と不安〕というのは、原子力に対する不安ですか？

(a) エネルギーに対する不安です。

(B) 将来のエネルギーが枯渇するのではないか、ということですか？

(c) はい。今、自然エネルギーと言われてはいますが、その実現性に対する不安も

あります。本当に実現できるのかなど。コストとか、そういう面で。

(B) そうすると、エネルギーの需要と供給に対する不安ということですか？

(c) はい。

(サブF) もう10分過ぎているのですけれども…。

(a) では、他の意見についても。漠然とした不安の話はしましたよね。

(B) はい。エネルギーの将来の供給に対する不安ということです。

—— すみません、流れについて質問してもいいですか。サブファシリテーターの確認の作業のことを、ファシリテーターにもう少し配慮してもらったほうがいいですか？

—— 書くのが追い付かないときには、もう少しゆっくり話してくださいとサブファシリテーターが言ってください。ファシリテーターの人にはそういうことは分からないので。

(a) ええと、ここは政策の話ですか？

(B) [エネルギー教育]とか、[身近に捉えることが大切]という意見がありますが、これは自ら参画しろということをおっしゃっているのだとしたら、

(b) 違います。エネルギーのことを、普段なかなか身近に感じて考えていないのではないかと、ということです。まずそれがなかったら、政策が出てても関心を示さないですよ。

(a) 身近に感じてもらうように教育があって、その上で周知していくということですか？

(b) 順番はそうではなくて、やはり国の政策が先にあるのだと思うけど。事故があったから関心は高まったけど、やはりなかなかエネルギーについてあまり関心がないし、日本のエネルギー自給率が低いということはあまり感じていないということをもっと知らないと。

(総合F) あと5分でグループワーク1が終わりますので、それぞれ4番に入ってください。グルーピングを見直して、それぞれタイトルをつけていただけますか。

(木村) そうしたら、サブファシリテーターは、分かりましたという合図を送ってください。

—— タイトルは黄色の付箋に書くのですか？

—— いや、黄色の付箋は出さないほうがいいですよ。混乱すると思います。

(木村) 直書きでいいです。

—— こういう状態で付箋を並べているのは駄目ですよ。付箋を動かすときには、なるべく塊になるように置かないと、2重の手間になってしまいます。それで、タイトルをどこかにつけるのだから、上を空けておくとか。

—— サブファシリテーターは緑のペンで書いたはずですが、黒に見えますね。

—— インクがいっぱい出ちゃうのかな。

—— やはり茶色か黒のほうが分かりやすいですね。

—— サブファシリテーターが書いた付箋も一緒にグループにしておくのですね？

(木村) はい。

(C) これは一緒ではないです。それもくっつけては駄目だと思います。

(サブF) ここは？

(b) これもグループではないですよ。

(C) この話と、bさんが言ったこの話は、違う意見としてまとめないと。

(木村) その辺の話が、グルーピングを見直すという作業です。

(サブF) これはこの辺の話だったんじゃないですか？

(C) いや、その間の話なのですよ。環境の話をごちらにおいて、原子力のごちらにおいて、その間の関係として、

(A) そう。

(サブF) では、〔温暖化が心配〕はこの辺りでいいですか？

(c) そうですね。

—— タイトルを書くところが狭いですね。スペースをちゃんと考えてやらないと。

—— で、タイトルを相談して決めてください、ということを仕切らないと。

(a) はい。では、タイトルを書きましょう。

これは「環境」でいいですか？

(c) そうですね。

(B) ここは「万歳原子力」じゃいけませんか？

(総合F) 皆さん、そろそろ終わりの時間です。まとめができたならホワイトボードに貼ってください。

(A) ここは「政策」。

(c) 「政策」ですね。

(サブF) ここは「不安」ですよ。

あ、サブはそういうふうには言っちゃいけないのか。

(c) ここは「原子力」ですか。

—— グループのタイトルは、皆に書いてもらったほうが早いですね。

—— そうですね。タイトル付けは皆でやればいいのです。

—— できる人が集まれば、ですけれども。人によるでしょうね。

(a) これとこれは何でしたっけ？

(C) これは、相反していないという意見です。これは、対立しているのではないかと
言っている。

(B) では、これは「共存」で、これは「対立」になるわけですね。

(総合F) それではボードに貼って、休憩してください。

<グループワーク 1 終了>

(木村) この後、休憩が終わって、グループワーク 2 の進め方の説明があるので、その
間に、サブファシリテーターは付箋に番号を振ってください。

—— 通し番号でいいのですか？

—— いや、まずサブファシリテーター2人で、グループに①、②、③、④と番号をつけて、
そうしたら、1-1、1-2 というふうに、分担して書いていけば早いでしょう。この書き方に
統一しましょう。

—— 「1-1、1-2」という形ですね。

—— サブファシリテーターが書いた付箋にも番号を振ったほうがいいですか？

(木村) つけたほうがいいと思います。

—— それも参加者の誰かが言った意見ですからね。

—— では、グループワーク 2 をやってみましょう。残る人と変わる人がいます。

(準備)

—— 宿主になる人は、2人並んで、ファシリテーターのそばに座ったほうがいいですね。

●グループワーク 2

(総合F) それでは、グループワーク 2 に入りたいと思います。まず、グループワーク 2 の進め方を簡単に木村さんから説明していただきます。

(木村) 読み上げました。

(総合F) それでは、これから 40 分間ということで、進めていただきます。途中 20 分くらいで私が声をかけますので、サブファシリテーターの皆さん、ファシリテーターと一緒に進めてください。よろしくお願いします。

(C: ファシリテーター^{※以下下線で示す}) とりあえず、宿主の方から、先ほどの報告をお願いしたいと思います。どうでしょうか、どちらから？

(A: 宿主) じゃあ、市民の a さんから。

—— それはファシリテーターが指名するのですか？

(木村) 指名してください。

(C) では、a さん、お願いいたします。

(a: 宿主) はい。

まず、「環境」というグループですが、自然エネルギーの利用とか、そういうことですね。それから、「原子力」について。それから、「政策」に関する事。それと、何となく不安というものがありました。

そして、いろいろ意見を交換する中で出てきたのが、原子力と環境を考えた自然エネルギーなどが相反するのではないかという意見です。それに対して、相反さないで、共存していくことができるのではないかという意見が出ました。以上ですけれども、追加はありますか？

(A: 宿主) もう追加はありません。

(C) では、今の議論を踏まえまして、皆さんから、ご意見をお伺いしたいのですが、同意できる意見なのか、そうではないのかという話ですね。

(木村) まず2番です。意味の確認をしてください。

(C) それでは、宿主から説明がございましたけれども、それに関連して、質問や意見を受けたと思います。

(b) ②の〔漠然と不安〕〔心配〕というのは、日本の将来のエネルギー全般に対しての不安ですか？ それとも、原子力だけとか、特定のものに対する不安なのでしょうか？

(A: 宿主) それについては、日本のエネルギーのあり方について、漠然と不安だと伺いました。

特に原子力とは言っていませんでしたよね？

(a: 宿主) はい。

(C) それ以外にご意見やご質問はございますか？

(B) 4-6の〔実現できるのか〕というのは、何に対してですか？

(サブF) 貼る位置を間違えたかな。

(B) 貼る位置が違う？

(C) いかがでしょうか？

(a: 宿主) (貼る位置が) 違うと思います。

(サブF) こちらだったかもしれないですね。

(B) なるほど。不安の意味ですね。

(C) ご指摘ありがとうございます。それ以外にありますか？ bさんはありますか？ cさんもいかがでしょうか？

(c) 別に質問はないです。

(C) それでは続いて、これから市民は赤いシール、専門家は青いシールを貼ってください。同意できるか、同意できないかという意味ですね。

(b) いくつ貼ればいいのですか？

(C) 3つ選び、と書いてあります。

(A：宿主) 自分の意見に貼ってもいいのですか？

—— それはどうなのですか？

(木村) 別にかまいません。自分の意見よりもいいものがあればそれに3枚貼ればいいし、やはり自分の意見がいいと思ったらそれでもいいし。なんでもいいです。

(C) では、自分で優先順位をつけて、3枚貼ってください。自分の意見に貼っても結構です。

(シールを貼る)

—— 思わず3枚以上貼ってしまいそうですね。

—— 3枚だけ配ればいいのではないのでしょうか。

(木村) そうしましょう。

(b) これを見て疑問がひとつ増えたのですけれども、自然エネルギーの中には再生可能エネルギーも含まれるのでしょうか？

(C) 宿主さんに聞いてみたいと思います。いかがですか？

(A：宿主) その話は出なかったですね。

(a：宿主) ええ、出なかったです。自然エネルギーと書いた人は自然エネルギーと言ったのでしょうし、バイオマスエネルギーと書いたのは私なのですけれども、再生可能エネルギーのことを言っています。

(B) 役所の定義では、再生可能エネルギーのほうが範囲が広くて、そのうちの部分集合が自然エネルギーになっています。

(サブF) 説明に入っていますよ。よろしいですか。

(C) あ、すみません。それは国の定義ですけれども、これはこのグループの話ですから。

—— 今のようなケースはあり得ますよね。そういうことばかりかもしれない。

(C) ええと、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書いてくださいとあります。

(a) 何についての？

(C) 何については書いていませんね。「なるほど」と思った理由を書くのですね。

(木村) いや、まだ4番です。

(サブF) シールが貼られたグループワーク1の模造紙を見て、気づいたことを書いてください。

—— サブファシリテーターさん、皆がシールを貼ってくださったから、そのシールがどこに多かったのかとか、そういうことを共有しないと、皆さんの意見が出てこないと思います。

(サブF) では、ファシリテーターさん、特に意見が多かったものがあれば、ご指摘いただけますか。

(C) では、単純にシールの数が多かった意見を読み上げます。〔自然エネルギーが増えてほしい〕が3つです。それと、〔相反するとは思わない〕というもの。それと、〔エネルギー教育が大事〕。3つ貼られているのはそれだけです。

(B) そうすると、今の3つに我々の意見を出せばいいのですか？

(C) そうですね、ここだと、

—— すみません、今、3票入っているところについて意見を出す、と言ったけど、そんな

ことではないですよね？ その辺を確認しないと。

—— 「この意見にシールが貼られなかったことにびっくりした」も意見なので、そういった限定は何もなく、意見を書いてもらいます。

—— あまり細かいことを説明しなくてもいいから、とにかく模造紙を皆が見てくれるような雰囲気にすることが大切です。4番の文言を変えてもらいます。ちゃんと模造紙を皆で見る、というステップを入れてもらいます。そして、意見を書く。

—— 最初から数を数えちゃいけないのか。

(木村) いや、数えてもいいのですけれども。「シールが3枚貼られているのはこの辺ですね、読み上げます」というくらいの、淡々としたもので構いません。

—— 「全体を見て」ということを言わないと、数にこだわって書く可能性がありますよね。

—— 自分ではこれは大事な意見だと思っていたのに、誰もシールをつけなくてびっくりしたら、そういうことを書いてもいいし。どんな視点でもいいということを、サブファシリテーターさんが伝えていただくことが大事です。

(C) では、よろしいですか。シールがあろうとなかろうと、自分はこれが一番よかったなとか、逆に、なぜつかないのだろうとか含めて、意見を書いてください。

(木村) 「グループワークの進め方」を読み上げるほうがいいと思います。

—— そのほうがいいですね。いろいろ言わないほうがいいと思います。

(木村) ファシリテーターは、これを読み上げることが基本です。そのためのカンペなので。それを読み上げればある程度回るようにしているつもりなので。

(C) では、4ポツを読みます。シールの貼られたグループワーク1の模造紙を見て、気づいたことを書き出します。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさんの意見を書くように心がけます。

(サブF) それでは3分測りましょうか。

(記入中)

(C) では、3分経ちましたので、1人ずつ意見を読み上げてください。そして模造紙の下に貼っていくようにしたいと思います。

では、aさん、読みながら、貼りに行ってください。

(a) 再生可能エネルギーへの関心が非常に低いのだなと思いました。

それから、大消費地でのエネルギー教育の工夫と筋道が早急に必要だと思います。

(C) では、Aさんお願いします。

(A) 不安の中身をぜひ知りたいと思いました。

それから、本当にエネルギー教育は必要なのだろうかと思いました。

(C) では、cさんお願いします。

(c) エネルギー教育はやっぱり必要だと思います。

あと、エネルギーとしての全体を考えていくことが必要なのではないかなと。

(C) 全体？

(c) はい。いわゆる自然エネルギーとかいろいろ。ここですね。

(サブF) 下に貼りましょう。

(C) では、Bさんお願いします。

(B) 原子力のコメントが少ないのが残念です。

それから、「原子力と自然エネルギーが共存できる」へのシールが多かったのが素晴らしいと。

政策へのコメントが多いというのは、ちょっと意外な感じがしました。

(C) では、bさんお願いします。

(b) 国のエネルギー政策が期待されていると。だから、国は長期的なものをきちっと示すべきだと思います。

どれだけ再生可能エネルギーが増えるか不安なので、その政策をきちんと国が示すべきだと思います。

それから、環境教育は子供たちの未来のためにぜひ必要だと思います。

(C) 私は、エネルギー教育が大事だという付箋があったので、それは皆さんの共通の認識なのだなと思いました。ただ、大事なんだけど、どのように教えるかは、非常に難しいのではないかと感じます。

この意見について、特に話し合いはありません。

(サブF) では6番にいきましょうか。

(C) 私も含めて各自が、グループワーク1で出た模造紙を見て、「なるほど」という意見を1つ選んで、「なるほど」と思った理由を書き出してください。これも3分程度。

(b) すみません、これは上も下も全部合わせてですか？

(木村) 全体です。なので、下にアイウエオという番号をパッと振ってください。

—— 貼られるときにサブファシリテーターがすぐに書いていく必要がありますね。

—— でも、今、皆さん貼る位置を考えながら貼っていたから、それを考えると、番号があちこち行ったり来たりすることになってしまいますが。

(木村) 全部貼られた後にバーッと書いてもらうしかないですね。

—— 先ほどの打ち合わせでは、例えば政策に対しての意見だったら「4-A」にするという話だったと思いますが。

(木村) いえ、違います。そうやって番号を振っていくのは難しいし、上に関わらない意見が出てくる可能性もあるので、単にアイウエオで構いません。

—— 今のbさんの質問は、どれに対して「なるほど」なのかを明確にしたほうがいいのではないかと、ということですよ。だから、上でもいいし、下でもいいですと。

—— だから、記号を書いたほうが後で分かりやすいのではないかと思ったのです。それは参加者が自分で書いたほうがいいのでしょうか？

—— いや、サブファシリテーターが書くのですよ。

—— すでに出ている付箋にサブファシリテーターが番号を書く、というのはその通りです。

そちらの話ではなくて、これから参加者が書く付箋に、参加者が番号を書いたほうがいいのか、という話でしょう。

—— 例えば、「ウの意見に対してこう思う」と書いたほうがいい、っていう意味？

—— それは書くと決まっていたよね。

—— はい。でも、一参加者として質問してみました。

—— その点は、ファシリテーターが説明するか、していなかったらサブファシリテーターが説明しなかったら、混乱しますね。

(木村) その点に関しては、「進め方」に書いていないので、サブファシリテーターが言わなければなりません。

—— 分かりました。

—— 1枚目の模造紙の下1/4に関してなのですが、今、皆さんが考えながら、この辺に貼ろうかな、とやっていますが、本当はそういうことも考えなくてもいいのですか？

—— いや、参加者が考えてくれるなら、そのほうがいいです。

(木村) 別に貼る場所はどこでもいいのですけれども、参加者が考えてくれているなら、そういうふうにしてください。

—— で、私たちは、それに対して、通しでバーツとアイウエオで書いていい？

(木村) 通しでいいです。

(C) では、3分で、「なるほど」と思った理由を書いてください。

(記入中)

(木村) 「なるほどと思った意見」は1つだけですよ。「なるほど」は1つで、それに対する理由はたくさん書いていい。

(C) 今度はbさんからぐるっと回っていきませんか。

(b) はい。カ、専門家の方が「エネルギー教育は本当に必要か」という意見を出されたことに衝撃を受けました。

—— 参加者に「カ」とか書いてもらうのですか？

(木村) そうです。

(C) では、Bさんお願いします。

(B) 5-1の「自然エネルギーと原子力が相反するとは思わない」というところにシールがたくさん貼られていることに非常に共感を持ちました。その理由は、私は、この両者が対立するのは不毛だと思っていて、原子力だとか自然エネルギーだとかを選択できる余裕がないほど日本は切迫しているという認識を持っているので、この意見は素晴らしいと思いました。

(C) では、cさんお願いします。

(c) 4-7の「身近に捉えられることが大事」というのは、なるほどと思ったのですが、それをどのように伝えていくかということがなかなか難しいのではないかなと。大事なことなのですが、それを広めていく、伝えていくということをどういう形でやっていけばいいのかなと思いました。

(C) では、Aさんお願いします。

(A) 私がるほどと思ったのは、クです。「エネルギー教育はやっぱり必要」と書いてあったので、それに対して、ふうん、なるほどと思いました。否定的な“ふうん”です。なぜかと言うと、エネルギー問題というのは教育で本当に身に付くのかどうか、よく分か

らない。水や空気と同じで、原始的な生活をしないと分からないのではないかと考えているので、ちょっと教育とニュアンスが違うのではないかと。

(C) 教育が大事というのではなくて、教育は難しいのではないかとということですか？

(A) 教育は難しく、教育とは合わないような気がします。

(C) 分かりました。後でいろいろ議論できればと思います。

では、aさんお願いします。

(a) 私は、オの「原子力のコメントが少ないのは残念」というのは、当然ではないかと思いました。その理由は、今日は半分が市民だから、やはり非常に関心が薄れているのではないかと思いました。

(C) なるほど、鋭いご意見ですね。

私は、今後教育をどうするのか、というのは意外と議論されていないような気がするのです。そういう意味では、ク、キ、コに関係するのですが、将来のことは教育に通じていると思いました。

(A) 1つに対して言うんじゃないんですか？

(C) あ、力もあります。失礼。

(A) そういうふうにしていいのですか？ ひとつの意見に関して理由を書けと言われたのですが、ク、キ、カ、そういうふうを書いていいのですか？

(C) いや、要するに、いろいろな意見があるので、単に1つだけの答えではないのではないかとということで書いたのです。

それともう一点は、

(B) 1つに絞って、と書いてあるのに。違反だね。

—— そういうときはどうするか決めましょう。

(木村) その中で1つに絞ってください、と言ってください。

(C) クにしましょうか。

それで、グルーピングはこれでいいですか？

—— グルーピングなんてしませんよ。

—— いや、今ここに貼ったから、このままでいいかという意味の質問です。

(木村) 進め方を読み上げて、はいどうぞ、という進め方をしてください。8番を読み上げてください。

(C) 8番は、貼られた意見に対して、意見を自由に言っていきます。意見と意見のつながりについても、意見を言いましょう。ここでの発言はサブファシリテーターがキーワードをポストイットに書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いて話し合いを進めてください。

で、余裕があれば、その意見やまとまりについて、見える化をしましょうと。

—— ここで意見を交換したときにサブファシリテーターが書くわけでしょう。それをそのそばに貼っていくわけだから、間を空けて貼っておいたほうがいい。最初からそういうふうに貼ったほうがいいですよ。

—— ただ、一巡するまでは、一体いくつ意見が出るか分かりませんでしたので、こういう貼り方になりました。

—— 最初に貼るときはグルーピングしないということですよ。

—— しなくてもいいけれども、今みたいに貼っておいたほうがいいというのは、先ほど出ていましたよね。それを、サブファシリテーターがやっていいですか？

(木村) あまりやらないほうがいいです。今回はグルーピングが主ではないので、やらなくてもいいと思います。

ただ、例えばクヤカは似たような意見なので、というふうに、参加者が、近くに貼りましょうかと言えば、そうしてもらってもいい。それがなければ、並列に貼っておいたほうがいい。

—— では、それとなく6列になるようにしたほうがいいのではないですか。

—— 私もそう思います。今は模擬なのであまり数がありませんが、本番は、理由がある程度連なると思うのです。そうすると、1人の意見が縦にある程度幅を取ると思うのです。

—— だから、6名なので6列になる。

あと、「なるほどと思った意見」そのものと、その理由とを、付箋を分けて貼ったほうがいいですね。

—— それをやると二度手間だから、番号で照らし合わせることにしよう、と決まったはずです。

—— なるほど。記号が書いてあるから分かる。

—— 参加者の人は、これに共感したということとその理由を1枚に全て書いてしまう気がするのですけれども。

(木村) そうしたら、「なるほどと思った」意見を、番号ごと書き写してもらって、それに対して、その理由を書いてもらうようにしましょうか。まず1枚目は、なるほどと思った意見をそのまま書き写してもらおう。その下に、理由を書いて貼っていく。

—— では、6人が選んだ意見が全部違えば6列になるけれども、もし同じだったら、

—— いや、同じであっても、列を分けておかないと、理由が違う可能性があるから。

—— ただし、「なるほどと思った意見」が同じものだったらば、隣の列にする、くらいはしてもいいと思います。

—— 「なるほどと思った意見」が、例えばカだったら、専門家が書いた意見ですね。市民の方がなるほどと思った場合、青の付箋に書き写すのですか？

—— それから、意見交換のときに出た意見は、何色の付箋に書くのですか？

(木村) 基本的には、その人の色に合わせればいいと思います。

市民が専門家の意見を見てなるほどと思ったら、赤の付箋にそれを書き写す。そうすれば、その意見をなるほどと思って選んだのは市民の人だ、ということが分かる。それを青色にしちゃうと、分からなくなるので。意見交換のときも、市民の意見は赤に、専門家の意見は青に、素直に書けばいいです。

そうしたら、困りそうなところはだいたい終わりましたか？ そろそろ時間が時間なので、終わりにしたいと思います。

(総合 F) 全体共有もやってみましょうか。模造紙をボードに貼ってください。

<グループワーク 2 終了>

●全体共有

(総合 F) それでは、それぞれのグループでどんなことが話し合われたか、全体共有をしてみましょう。グループワーク 1 について 3 分、グループワーク 2 について 3 分でお願いします。最初は宿主さんが発表して、グループワーク 2 はくじで決まっている発表者をお願いします。

では、まず宿主さん、お願いします。

(A: 宿主) A 班では、日本の将来のエネルギーについて、環境系の意見、不安ということ、原子力、政策という意見が出ました。間をつなぐものとして⑤と⑥の意見が出ています。

「環境」に対しては、自然エネルギー、それからバイオマスエネルギーの活用という意見、環境にやさしいエネルギーがほしいという意見が、要望としてあったと思います。

「不安」というのは、原子力に対する心配ではなく、日本の将来のエネルギーがちゃんとまかなわれるかどうかに対する不安です。

「原子力」については、原子力発電はやはり安くて必要、火力発電は石油が高騰するので厳しいという原子力に対する応援の意見が専門家から出ています。

「政策」に対しては、きちんとした政策ビジョンが必要という意見。将来に対する政府の政策と、それを皆に周知すること。それから、身近にそれらを捉えて、エネルギー教育が必要なのではないかという意見が出されました。

これらに対して、原子力と環境は相反するものではなく、共存するものであるという意見と、相反するもので、両立は難しいのではないかという意見が出されました。

それに対して、メンバーが入れ替わって、

(木村) そこからはグループワーク 2 の発表です。

—— 次は誰が説明しますか？

(木村) 2人が当たるので、2人で説明してください。

—— では、Bさんとcさんをお願いします。

(B) では、市民の意見をcさんにご紹介していただいて、専門家の意見は私が紹介しましょうか。

(c) そうしましょうか。

まず、グループワーク1に対する感想から。再生可能エネルギーへの関心が低いということ。エネルギーとしての全体を考えるべき。エネルギー教育はやっぱり必要ではないか。大消費地でのエネルギー教育の工夫と道筋が必要。環境教育は子どもたちの未来のために大切。国のエネルギー政策が期待されている。長期的に示してほしい。再生可能(自然)エネルギーを増やす政策をもっと明確に。というのが市民からの意見です。

(B) 専門家の意見は、不安の中身をぜひ知りたい。「原子力と自然エネルギーが共存できる」ことへのシールが多いのがうれしい。原子力のコメントが少ないのは残念。エネルギー教育は本当に必要か。エネルギー教育はどのように教えるのが難しいのではないか。あるいは、政策のコメントが多いのは意外だ。こういう意見が出ておりました。

これらの意見に対し、「なるほど」と思った理由が右側の模造紙にあります。今度はひっくり返しましょうか。

市民の意見としては、「エネルギー教育は本当に必要か」という意見に対して、専門家がエネルギー教育は本当に必要かと言うのは衝撃的だった、という意見が出ています。

「身近に捉えられることが大事」という意見に対して、それをどのように広めていくか、どう伝えていくか、という意見が出ておりました。

オの意見、「原子力のコメントが少ないのは残念」に対して、市民の側から、当然ではないかという意見が出ています。半分が市民だから、関心が薄れているという理由が挙げられています。

(c) 専門家は、クの「エネルギー教育はやっぱり必要」という意見に対し、“ふうん”なるほどと思ったそうです。否定的な“ふうん”だそうで、教育で分かるものか？ 教育とは合わないのではないか？ という意見が出ておりました。

「自然エネルギーと原子力が相反するとは思わない」に対して、省エネと原子力の対立は不毛、選択できる余裕がないほど切迫しているということをもっと認識しないとイケないのではないか、という意見が出ています。

「エネルギー教育はやっぱり必要」ということに対して、将来のことは教育に通じると思った、という意見が出ています。

(総合F) ありがとうございます。

こちらの班は、エネルギー教育というキーワードに両方の意味を持っていらっしゃる方が多いように思ったのですが、カとクの意見をおっしゃった方はどなたですか？ まず、カの意見、「エネルギー教育は本当に必要か」。

(A) はい。

(総合F) 普通、教育は必要と素直に思うのですが、皆関心が高かったのですが、どうですか？

(A) そうですね、エネルギー教育というのは、教育に合うかどうか。教育というと、私は学校教育と最初に思ってしまいますので、家庭教育、学校教育にエネルギーが合うかどうか、ちょっと自分には分かりませんでした。むしろ、サバイバル体験をしないと、エネルギーって分からないのではないかと。

(総合F) サバイバルというのは、どういう意味ですか？

(A) ごく基本的に、ボーイスカウトのキャンプとか、そんなことを思っています。

(総合F) ありがとうございます。

というような形でよろしいでしょうか。

(木村) そうですね。カタカナの番号だとそのグループの中の意見交換になるのですが、数字の番号だと他のグループに行く可能性があるので、そこも聞いてもらえると面白いかもしれません。

(総合F) 4-7を出したのはどなたですか？

(a) はい。

(木村) こういうこともありえますが。

—— 模造紙に、線を引いた下には「同意」とか、2枚目には「なるほど」とか、書いておいたほうが良いと思います。

—— 同意のシールが貼られた後に書いたことだから、「同意」ではありません。

(木村) そうです。線の下は「同意」ではなく、「感想」です。

—— 当日の話し合いがうまく進んでいけば、今みたいに、いろいろな方との意見交換ができて、面白いかもしれないですね。フォーラムの中でそこまでできなくても、その後の懇親会や、帰りがけのフリートークでできればいいと思うので、しばらく模造紙は貼ったままにしておいたほうがいいかもしれません。

—— グループワーク 3 の進め方の 4 番の、「テーマ案は、皆に問かける質問の形にしてください」というのは、具体的にどういうことですか？

(木村) 例えば、「原子カムラとは何だろうか？」とか。そういう問かけの形にしてくださいということです。

—— 例えば、「どんなエネルギー教育が必要か？」とか。

—— 疑問形になっているタイトルにするということですね。

(木村) そういうことです。

—— グループワーク 3 は、また模造紙を変えるのですか？

(木村) 模造紙を変えます。ただ、グループワーク 3 は、最後に出てくるのは模造紙ではなく、テーマ案 2 枚なので、作業スペースとして模造紙はあるけれども、別に模造紙をホワイトボードに貼るわけではありません。

そうしたら、皆さん、席に戻ってください。模擬フォーラムはここまでにしたいと思います。

残っているのは、F3-9、フォーラム後のアンケートです。去年のものをそのまま持ってきていますが、「次回以降のフォーラムで話し合ってみたいテーマがございましたら」という部分は削除します。その他に入れなければいけないような項目はありますか？

(竹中) 特にないと思います。

(木村) そうしたら、Q4 をなくして、番号をずらして、調整したいと思います。

3. その他

(木村) ということで、以上で今日用意した全ての資料の説明が終わりました。今日の議論を受けて、近いうちにまた皆さんに配布資料の確認をお願いすると思います。メール上になるとは思いますけれども、よろしくお願いします。

最後になりますけれども、第1回フォーラムは5月31日になります。11時には集合していただく。会場の設営が先か、打ち合わせが先か、できれば打ち合わせを先にしてしまったほうがいいかなと思っているのですが、そういう感じで進めたいと思います。

懇親会に関しては、役割分担も含めて、あとで神崎さんのほうから連絡するようにしてください。

当日は、グループワークがあって、次回のテーマについて話し合いがなされて、その後投票があって、開票もして、全てが終わった後に懇親会があって、その後に反省会をして、終わりということなので、長丁場になりますけれども、ご協力いただければと思います。よろしくお願いします。

何かございますか？

それでは、これで終わりにします。どうもありがとうございました。

以上